42 三光丸クスリ資料館　－薬作りの歴史が勉強できます－

浩子さん，お腹痛が治って良かったね。さて，「お薬がなかった昔の人はどうして病気を治したのですか」というあなたの質問への答えです。

大国主命がけがをしたウサギさんを助けてあげたお話を知っていますか。そう，因幡の白兎(いなばのシロウサギ)の話です。あのウサギさんは蒲(ガマ)の穂にくるまって傷を治しました。調べてみるとガマの穂にはけがを治す成分がふくまれているのだそうです。このことから，昔の人たちもけがや病気に効く薬を知っていたことが分かります。そして,「この葉っぱを当てておくと早く治るよ。やってごらん」,「この草の根っこをせんじて飲むとお腹痛に効くよ」そんなふうに自分が見つけたことを教えてあげたのでしょう。

縄文時代の人の住居跡から発掘されたオウバク(黄柏)は日本最古の薬とされていて，今も使われていますし，611年5月5日には,推古(すいこ)天皇が菟田野(うたの・今の宇陀市)で薬をとるためにシカ狩りをされ，女の人たちは薬草採りをしたという記録があるそうです。このような草根

木皮から採る薬(生薬・しょうやく)は今も使われています。

こんな薬のことが勉強できる施設に三光丸(さんこうがん)クスリ資料館があります。ここには，たくさんの薬草が展示されています。センブリ（当薬）はリンドウ科の植物で消化液の分泌を促進し，消化吸収を高めます。センブリという名前は，千回振り出してもまだ苦いということからつけられています。オウバクはミカン科のキハダの樹皮です。健胃，整腸には欠くことのできないもので，胃腸の内壁を保護します。かじってみるととても苦いのです。これは大変，カンゾウ(甘草)をかじりました。これはマメ科の植物の根で，甘味を示す成分を含み，体への刺激を和らげます。

その隣にはケイヒ（桂皮）がありました。シナモンとも呼ばれ，西洋料理にも使われます。クスノキ科の植物の幹や枝の皮で，健胃作用があり，消化不良や食欲不振に効くといわれています。そして，黒い粉はヤシ殻やおがくずから作った活性炭で粘膜を保護する働きがあります。これらを原料にしているのが胃腸薬・三光丸，これは後醍醐天皇が名付けられた名前で，三光は太陽，月，星の 3 つの光を意味しているそうです。

丸薬を作る道具の数々が展示され，でき上がった黒い粒々の薬が箱にいっぱい入っていました。たくさんのくぼみをつけた木製のさじで一定の数の丸薬をすくいとることができます。これを紙に包むと胃腸薬・三光丸のでき上がりです。

この静かな資料館の上には薬の研究所や工場があるそうです。この日は時間がなくて見学できませんでしたが，いつかもう一度訪ねてみたいと思っています。いっしょに行きませんか。

（平成 22 年 2 月・中学校 2 年生の浩子さん宛て）

スポットの案内

三光丸クスリ資料館は御所市今住 700-1 にあって，ＪＲ和歌山線掖上駅下車徒歩 10 分，近鉄吉野線市尾駅下車徒歩 15 分です。電話は 0745-67-0003，開館時間 9：00～16：00，閉館日は土，日，祝祭日など会社の休業日です。

理科のワンポイント「配置薬」

私が子どもの頃，居間の柱に薬を入れた大きな袋がぶらさげてありました。箱もあったように記憶しています。ここには風邪薬，胃腸薬など，いろいろな薬が入っていました。

ときどきやって来る薬屋さんに使った分の代金を払い新しい薬を補充してもらいます。「お宅は子どもさんがいるからけがの薬をふやしておきましょう」などと家庭の状況に応じて薬を入れてくれていました。いつでも，いろいろな薬がそろっているという安心感，不意の病気やけがに対応するためのシステム，こんなシステムは外国にはあまり見られないそうです。

今も，こうした配置薬の業者の自動車を見かけます。そんなとき，薬がいっぱい詰まった大きな風呂敷包みを背負ってやってきた薬屋さんを思い出し，おじさんがくれた紙風船や吹き戻しで遊んだときのかすかな薬の臭いが浮かんできます。

役の行者・小角が作った「陀羅尼助（だらにすけ）」に始まる奈良県の薬づくりは 1000 年以上の歴史を持っていて，今も御所市や高取町で盛んに行われています。そして，奈良県は富山県とともに配置薬の仕事をしている人の多い県なのです。